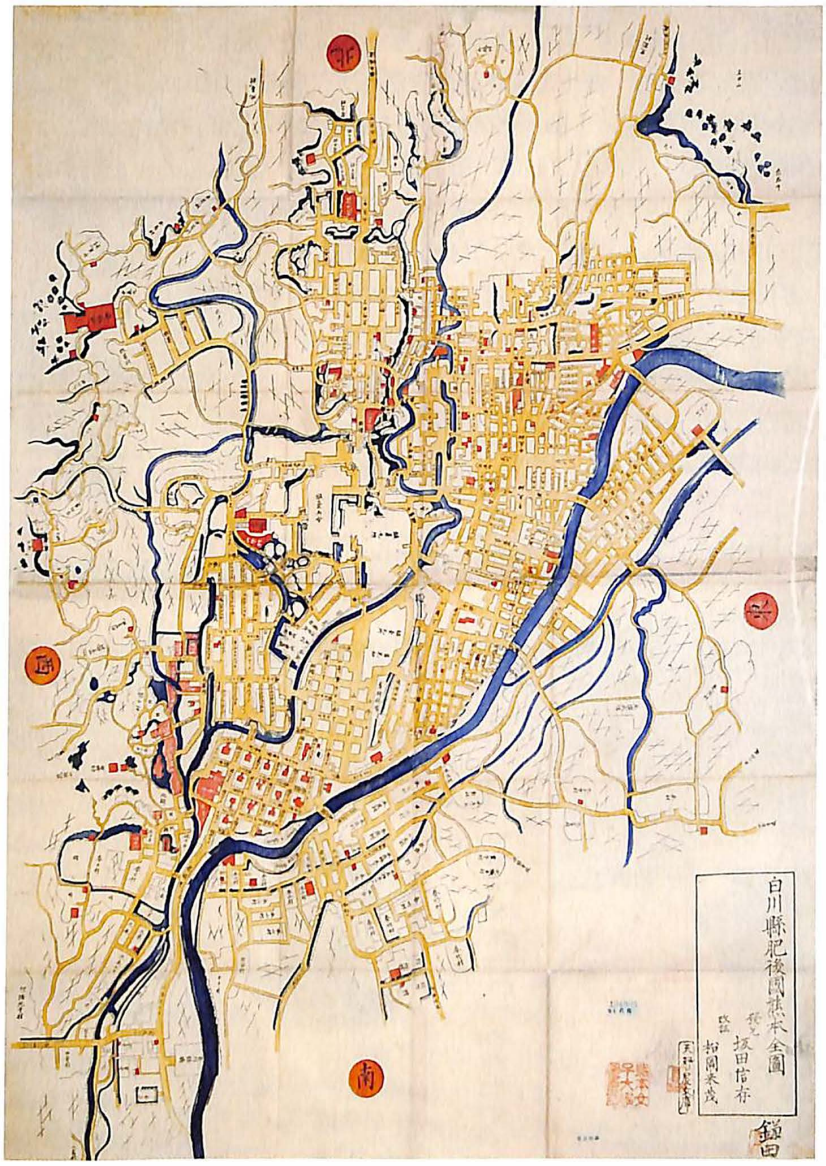
図書館古文書ライブラリー

熊本県立大学学術情報メディアセンターでは、大学創立時から図書館に収蔵・蓄積されてきた貴重資料を順次整理・修復し、一部を公開しています。

「白川県肥後国熊本全図」（しらかわけんひごのくにくまもとぜんず） 明治6～8年頃



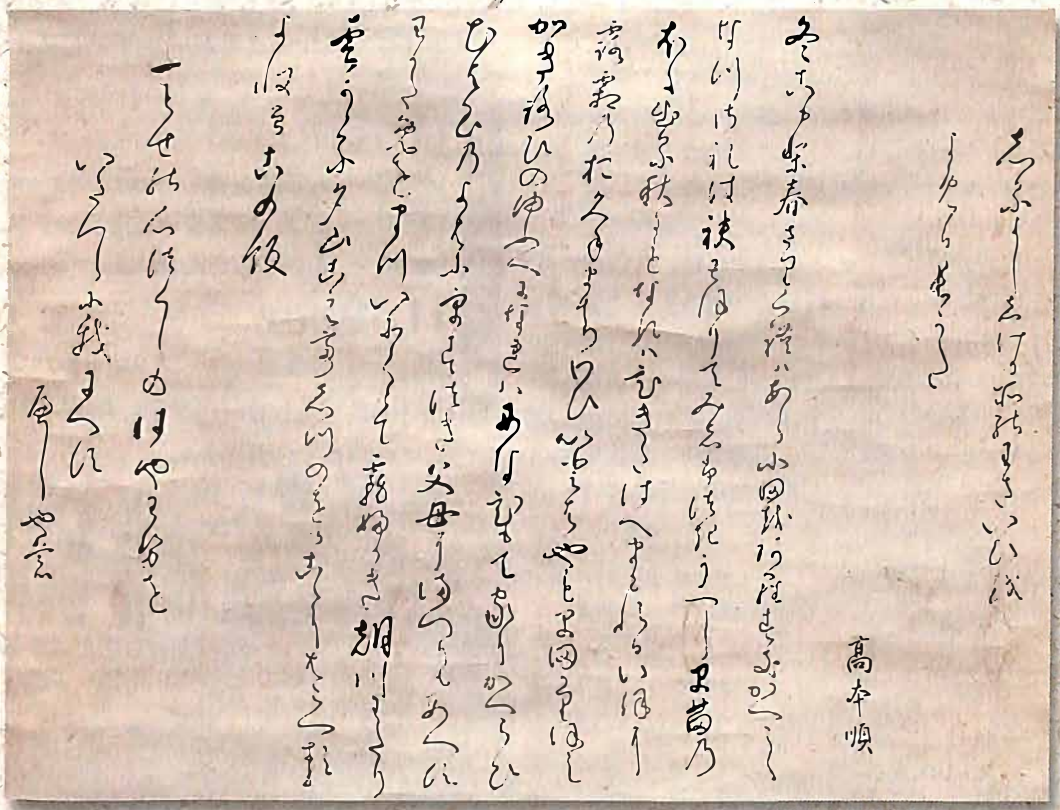
縦91.0× 横67.0センチ。木版色刷り。坂田信存発行。

明治4年の廃藩置県により、熊本藩が熊本県となりますが、その後いく度か分離・統合が繰り返されます。その過程で、明治5年6月には熊本県は白川県と改称され、この名称は明治9年の2月まで続きます。そうした歴史的背景を映し出した地図です。現在の二本木に県庁が置かれていますし、熊本城が鎮台兵舎として記されています。現在の地図と対比することで、興味深い相違が幾つもみつかることでしょう。朱で刷られている部分は寺院を示すようです。なお同じ熊本全図は、北海道大学附属図書館北方資料室にも保存しています。

（解説：文学部　教授　鈴木　元）

図書館古文書ライブラリー

熊本県立大学学術情報メディアセンター(図書館)に
収蔵する貴重資料を紹介します。



高本順

(弥富鞆彦氏寄贈品)

「冬ごもり長歌幅」

書:高本紫溟(1738～1813)　1軸、縦41cm×横56cm、紙本、墨書

儒学者。熊本の人。名順、号紫溟。秋山玉山、藪孤山に続く、熊本藩校・時習館三代目教授。藩儒として務める一方で、和歌や和文を能くする国学者としての面を取り上げられることも多く、紫溟をして幕末の熊本における国学興隆の祖とする評もあります。

本作は、「しるよししける所のわさいひをよめる長うた」と題する長歌で、「冬ごもり長歌幅」の命名は、歌の冒頭、「冬ごもり」の5字によります。内容は、自身に納められた「わさいひ」(早稲米)に対しての謝意を述べるもので、語句や歌の異同を含みますが、同様の長歌が『肥後文献叢書』第2巻所収「高本順大人家集」中に収められています。

解説:柿本加奈さん(熊本県立大学 大学院文学研究科 日本語日本文学専攻 修士課程修了)

図書館古文書ライブラリー

熊本県立大学学術情報メディアセンター(図書館)に
収蔵する貴重資料を紹介します。

Encyclopédie(フランス百科全書)

[初版]全28巻(1751-1772):本文17巻、図版11巻
※上記のほか、1776年以降に刊行された図版の続き1巻、補遺全4巻、目次全2巻

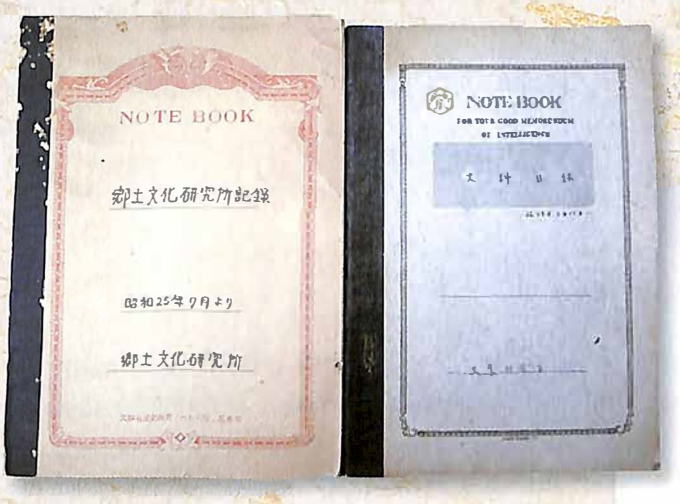
世界の社会制度や国家制度の枠組みの形成に大きな影響を与えたフランス革命前の18世紀半ばに、啓蒙思想家ディドロと数学者・物理学者ダランベールが20年以上の歳月をかけて啓蒙思想を集大成したものです。執筆者はこの2人のほかに、ヴォルテール、モンテスキュー、ルソーなど多くの錚々(そうそう)たる啓蒙主義者たちです。

『百科全書』には日本に関する記述も見られます。特に、日本文字について、「ひらがな」、「カタカナ」のほか、内裏でしか用いられない文字「やまとかな」が解説とともに紹介されています。

解説:総合管理学部　教授　渡邊榮文

図書館古文書ライブラリー

熊本県立大学学術情報メディアセンター(図書館)に
収蔵する貴重資料を紹介します。



熊本女子大学郷土文化研究所史料

写真左:左「郷土文化研究所記録」(昭和25年7月20日～至28年10月2日、B5ノート、ペン書)
右「史料目録」(昭和29年3月25日～11月14日、B5ノート、ペン書)
写真右:2種の印形と印鑑

熊本地域の文化と歴史の究明を志した「熊本女子大学郷土文化研究所」は、本学の前身である熊本女子大学の教員が中心となって立ち上げた有志の組織で、徹底的な文献実証学の方針のもとに数々の重要かつ先駆的な業績を残しました。

写真左の「郷土文化研究所記録」には、その設立経緯や研究活動、正式な大学組織にするための上申書の草案などが詳細に記され、また、「史料目録」には、熊本のいたるところで調査された600点以上の一次史料と調査場所・日程が記されています。

これらの史料は、本学の偉大な先人の足跡を「今」に蘇らせ、より良い未来の在り方を私達に問い、語りかけてくれます。

解説:文学部　講師　大島明秀

熊本県立大学ギャラリー

熊本県立大学に収蔵する貴重資料を紹介します。

本学日本文学研究室蔵

【百人一首像讃抄】

現代においても、正月のかるた競技で広く親しまれている『百人一首』。藤原定家撰とされていますが、広く読まれるようになるのは室町後期から。江戸時代には、その注釈本が各種出版されましたが、本書は細川幽斎の注に菱川師宣の絵を配した絵入り本です。刊年は不明ですが、江戸後期のもの。一首一首に歌人の肖像と、歌にちなむ情景が描かれています。ちなみに、今年は幽斎の没後四百年目にあたり、本学でも記念シンポジウムを今秋に開催の予定です。

解説：文学部　教授　鈴木 元